

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ちびっこどんぐり				公表日	R7年3月24日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		学習・遊び・相談など、各活動に合わせて十分なスペースを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準の人数を満たしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		玄関にやや段差がありバリアフリー化が困難である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔感を保つため、清掃を徹底している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動に合わせ、環境を整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務の前後やミーティングを定期的に行い、業務改善に努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			今後もアンケートを実施し、運営の向上に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見を聞き、話し合った上で業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		地域での研修情報を随時取入れていて参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的に必要な応じた面接を行い、ニーズや課題に合わせて作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員が共通認識を持って最善策の検討を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で計画を共有をして、こどもの支援を行えている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全職員で作成し実施している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節に応じた活動プログラムやスポーツ・クッキング・創作活動など様々な経験ができるように立案している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		状況の変化に応じてその都度面談をし、面談内容・日常の様子をふまえ、個別支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		会議で送迎先や活動・支援内容の役割分担について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		指導員全員での振り返りを行い、子どもの様子等情報共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童記録を用いて一人ひとり日々の様子を記録し、個別支援計画の立案時や支援に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		利用開始3ヶ月とその後6ヶ月に一度のモニタリングやケース会議、個別支援計画の作成の他、日々のミーティングで話し合いをする。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		月1回予定表を作成し、その中で自己決定する力を育てるための計画を入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当指導員が責任を持って参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者からの情報と合わせて学校とも連携を図り、情報交換・連絡・確認を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			主に保護者からの聞き取りや相談支援との書面での情報共有が多い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所や障害福祉サービス事業所と連携を密に取り、保護者の同意を得た上で情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		開催される研修会へ積極的に参加し、助言を受ける機会を作っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		年1回に地域交流をしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		事業所での様子などを連絡ノートに記載し、送迎時にも伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		連絡ノートや電話による相談対応、個別面談にて行っている。	
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧な説明を心掛けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があれば、送迎時や電話等において直ぐに対応させて頂いている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			父母の会は検討をしているが、保護者の方との都合が合わず、会の開催ができていない。

説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		マニュアル作成を行い、迅速な対応をしている。また記録に残し今後の対応に活かしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、活動写真を交え発行し、来月の活動予定や子供たちの様子をHPやSNS等で掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		PCはパスワード管理している。書類等は施錠した書庫にて管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性把握に努め配慮するよう心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年1回に地域交流をしている。	もっと増やしていけたら良い。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの聞き取りによる内容を職員に周知し、それぞれ個別に対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故、ヒヤリハットについては、記録を残し防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		現在、外部の研修会にも参加している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束はせず、指導員の配置を増やす対応をしている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ちびっこどんぐり		
○保護者評価実施期間	R7年2月1日		～ R7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	R7年2月1日		～ R7年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SNSやHPの充実	Instagramを用いて、子どもたちの活動の様子を投稿している。保護者や外部からの反応も良く、これからも継続して行っていく。	Instagram以外にもHP等で活動を大きく取り上げて掲載をしていく。
2	支援計画にあった生活の指導	苦手なところをなくしていく以外に得意なところは伸ばして、経験として身につけていく指導を心がけています。	活動の中で様々な支援へつなげることができるよう、予定表の内容を充実し、子どもたちの成長をのばしていく。
3	生活スキル向上	活動を通して、生活スキルを向上していきます。手先の訓練では工作をしたり、クッキングをすることで知識を得たり、生活に必要な力を身につけていく。	生活の中での必要な知識や技術の向上以外に、人と関わるコミュニケーションスキルを高めていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	低学年生が多いので高学年生の支援が難しい	職業訓練に特化したところではないのと、低学年生が多いこともあって高学年生と活動をする時も色んな意味でバランスが非常に難しい。	高学年生にも楽しめるような支援をしていく。また活動の中で高学年生が低学年生のフォローをすることで高学年生の成長につなげていく。
2	男の子が多く女の子が少ない	男の子に比べて女の子の利用が少ないため、男の子が好きな活動(体を動かす遊びなど)に偏ってしまう。	男女関係なく活動が楽しめるよう工夫して取り組んでいく。
3	遊び場が少ない	住宅地の中に施設があるので、外で遊ぶ時、騒音にならないように気をつけて遊んでいる。声や音が大きくなってきたら、児たちに声かけをしている。	室内では落ち着いてできるような遊びを提案していく。外で体を動かす時は声などが大きくなりすぎないように声かけしていく。